



当然のことながら対応出来ません。近年、「レジリエンス」は、個人・組織ともに通用する「外的環境・状況からストレスを受けてもこれに適応し、跳ね返し、生き延びる力」として、組織論や社会システム論、さらにはリスク対応能力、危機管理能力としても広く注目されています。医療機関は平常時からの準備とともに、自らをレジリエントかつ持続可能に転換し、レジリエントな保健・社会システムに貢献していく必要があります。



ヘルス・レジリエンスの構築に向けて

三重病院は、今後も三重県の一医療機関として県民の皆様の健康維持のための医療サービスを提供できるよう努力させていただく所存ですが、これらを維持していくためにも、今般のCOVID-19パンデミックのような健康危機に対応出来るようなレジリエントな病院を目指していきます。もちろん、昨今の医療を取り巻く厳しい状況から見れば簡単なことではありませんが、地域の皆様のご理解とご支援を賜ることができれば、皆様とともに進めていけると考えています。

まずは、現状の専門性の維持と更なる発展に注力します。当院は、これまで、小児救急を含む小児急性疾患、感染症、自己免疫疾患を含む免疫疾患、アレルギー、神経、内分泌、心療内科、摂食障害などの小児内科的疾患のセンター的な病院として、また小児外科、小児耳鼻科、小児整形外科においては三重県での中心的な役割を果たし、そして小児から成人に渡る重症心身障害児・障害者医療、そして成人における神経難病と糖尿病など内分泌疾患、および成人整形外科疾患や呼吸器疾患患者の回復期という、一連の「こどもから高齢者までの総合成育医療」を支えてきました。これらの専門性を更に深め、より広い視野を開拓していくためにも、スタッフの研修を奨励し、楽しく仕事ができるような体制でスタッフのレベルアップ

を続けていきます。レジリエンスは、まずはひとりひとりのスタッフから始めて行くのです。

次いで、これら専門性を支えていくのは、「よりよい明日」を追求することです。このためには、各分野・職種における研究を促進し、病院に常に新しい技術と知識を吹き込むことによって、スタッフ自身のモチベーションと組織的なレジリエンスにつなげて行くことができればと考えます。当院には臨床研究部があり、種々の研究機関との協力体制があり、新しい治療の研究も積極的に進めています。また、世界保健機関(WHO)のGOARN(Global Outbreak Alert and Response Network)に加盟しており、西アフリカのガーナ共和国との国際共同研究も継続しており、アフリカの地域医療や熱帯病の経験を積むことによって、いろんな難しい状況において、より幅広い疾病への対応を可能としていきます。

そして、来るべき次のパンデミックに備え、当院の専門の一つとしての感染症においては、入院/外来患さんを感染症から守るための感染対策を充実させるとともに、社会の感染症対策に貢献出来るように、国立病院機構全体としての研修機能に協力し、新たな新興感染症の発生に備えたサーベイランスデータを社会に提供出来るようにしていきたいと考えています。しかしながら、感染症対策は病院だけで出来るものではなく、地域の皆様とともに作り上げていくものですから、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

2022年が、みなさまにとって、楽しく過ごせる一年となることを祈念申し上げます。

Healthier and Happier
New Year 2022!

